

くらし再発見

巻頭特集では、多忙な生活の中でふと忘れがちだけれど大切なことをテーマとした、「くらし再発見」シリーズをお届けします。今回は、「今に取り入れたい 心豊かな暮らしの工夫 —温故知新—」をテーマに、映画作家の大林宣彦さんにお話をお聞きしました。また、古民家再生や、おばあちゃんの知恵を伝承する活動をしている方々に、温故知新へ取り組む思いを語っていただきました。

私たちの生活は自然や風土、歴史と深く結びついている

大林 宣彦

●おおばやし のぶひこ●1938年広島県尾道市生まれ。77年『HOUSE/ハウス』で劇場映画に進出。『転校生』（'82）『時をかける少女』（'83）『さびしんぼう』（'85）は“尾道三部作”と称され親しまれている。2007年は『22歳の別れ Lycoris葉見ず花見ず物語』、『転校生 さよならあなた』を公開。2004年春の紫綬褒章受章。



インタビュー

今に取り入れたい
心豊かな暮らしの工夫

— 温故知新 —

おしよゆの瓶に満ちている
ありがとうの気持ち

私の故郷、尾道の方言に「みてる」という言葉があります。「なくなる」という意味です。例えば、おしよゆがなくなつた場合には、「おしよゆがみてたよ」というように使います。母はこれを「満てる」（後述「みてる」は「満てる」と漢字表記にします）と書きました。

どうして、「満てた」が「なくなった」という意味になるのか、子ども時分の私は不思議でなりません。潮の満ち引きに関係する言葉だということには分かつたものの、得心できません。

おしよゆが増えたのなら「満てた」でも通じる。しかし、おしよゆは使われて減つたのだから、「引いた」と言うべきなのに、なぜ「満てた」と言うのだろうか。そこで母親に聞いてみたのです。

母親はじっくり考えて、答えてくれました。「あなたには目に見えるおしよゆのことはかり考えて

目次

■巻頭特集 くらし再発見

今に取り入れたい
心豊かな暮らしの工夫 —温故知新—
大林宣彦さんが語る、
ゆったりとした生活感と
地域の尊い「しわ」



■金融教育の現場レポート
事前・事後学習の工夫による
有意義な職場体験の実践

東京都足立区立第四中学校



表紙イラスト・題字 矢田 勝美

3

8

11

16

18

20

24

26

28

31

32

34

35

■連載 江戸のくらしと金銭観 —第3回—

江戸庶民の家計とやりくり
「共助の精神やリサイクルの仕組みが発達していました」
江戸東京博物館館長 竹内 誠

■そこが知りたい! くらしの金融知識

金融商品取引法の主なポイント
「投資性のある金融商品を契約するときのチェックポイントは・・・」
金融オンブズネット代表 原 早苗

■将来へのまなざし

「カーリングをしているときが、一番輝いているとき!」
カーリング選手 園部 淳子



■知るぽると最前線

作文・小論文コンクールを実施

■今すぐ役立つ きんゆう知恵袋

確定申告の基礎と申告のポイント
税理士 朝倉 洋子

■趣味の散歩道～生活いきいき～

紙飛行機
紙ヒコーキ インストラクター 丹波 純

■知るぽるとラウンジ

都道府県金融広報委員会の活動紹介
金融広報アドバイザー紹介

■読者のおたよりコーナー

知るぽるとクイズ

■金融広報だより

比嘉愛未さんが
広報キャンペーンキャラクターに



■会長挨拶

「新年を迎えて」
編集後記

■知るぽるとミュージアム

ポスターが語る昭和のくらし



いたのでしょうか。だからおしょうゆがなくなれば引いたと考えた。しかし、お母さんはこう考える。おしょうゆは確かになくなつた。しかし、このおしょうゆを私たちは毎日毎日おかずにかけて、家族みんなおいしくいただいた。それは本当にありがたいことです。

そこで、おしょうゆさんに『ありがとう、ありがとう』と思いつながら、お母さんはおしょうゆを注いでいたのです。だから、使い切つたこの瓶の中には、『ありがとう』という思いがいっぱいに満ちているのです。だからこそ、『満ちた』というのでしょうか。

そして、さらに母親は次のように続けました。「これからはあなたもおしょうゆを一滴一滴、滴たらせるときに、『ありがとう』と思いつながら、大事に使いましょね」

もちろん、辞書的な説明ではありません。言葉の正確な意味とは違う解釈かもしれませんが。しかし、子どもと一緒に生活の疑問を考えよう。

地域の尊い「しわ」を残したい

ところで、私たちの生活は、自然や風土、歴史と深く結びついています。例えば、「満てる」という漢字表現一つとってもそうです。尾道は港町。海と深い関係があるからこそ、そのような言葉が母の心に浮かんだのでしょうか。いわば、私たちの周りにある自然や風土は、生活の土台でもあるのです。暮らしの中の文化ですね。

私は人間の表情に表れる「しわ」は、その人の生き方、人生など歴史を感じさせる、大変尊いものと思っています。同じように、生活と結びついた風景や風土、言い伝えなども尊い地域の「しわ」として大切にしていくなきだと考えます。

例えば、尾道は海と山に囲まれた狭い平地に市街地が広がる町です。坂や石段の町とも呼ばれ、風情ある石畳の細い坂道、路地がそこかしこにあります。これらは生活と切つても切り離せない風景。尾道ならではの豊かな表情であり、美しい「しわ」です。

だからこそ、私は尾道を舞台にした作品では、そのような「しわ」に注目し、カメラを向けてきました。地元関係者から「そのようなものを撮るとイメージが悪くなる」と反対されたりもしましたが、私にとっては美しい「しわ」。同時に、時代がいくら経ようとも、残してほしい、開発によつて

そして大事なことを教えてあげよう。そういう大らかで、ゆつたりとした生活観が感じられませんか。

事実、この「満ちた」の説明には、言葉の意味を超えて、周囲への感謝の気持ち、物を大事に使うことなど、多くのヒントが詰まっています。

忙しい世の中だからこそ取り入れたい心のゆとり

ほかに、読者の皆さんにお伝えしたいことがあります。戦争が終わつたばかりの、小学生のころのことです。算数の授業だというのに、先生は不思議なことに運動場にみんなで出るように言いました。そして駆け回りたりして遊んだ後、先生が言ったのです。「みんなで雲を数えましょ。いくつあるかな」

空を見上げると、いくつもの雲がある。指折り数えるうちに、雲は風に流されたり、新たに

綿雲が浮かんできたり。

そのうち、それぞれが数え上げた雲の数を発表したのですが、みんな答えが違います。いつまでたつてもそろいません。そのとき先生はおつしやいました。

「算数だから、答えは一つだと思つたかい。それは違うんだよ。数字だつて生き物です。何一つ、同じではないんだよ」

世の中に、同じものは一つもない。これも、私にとつて大切な教えとして今でも記憶に残っています。

二つの子どもの時代の話をしましたが、これは、ゆとりのあつた時代のノスタルジーのように思われるかもしれませんが。しかし、私は忙しい現在だからこそ、少しでもいいから、意識的に、家族や子どもとの疑問に一生懸命答えたり、考える時間を持つ。そんな心のゆとりを持つ。それがいきいきとした生活につながるのではと思っています。



尾道市に残る石畳の細い坂道 (尾道市役所提供)

失つてはいけないとの思いで、撮影したのでした。

アナログを知れば知るほどデジタルでの表現は豊かになる

私は現在、映画製作と並行して、学生たちに映画を教え、彼らと付き合っています。

昨年、私が監督した『転校生 さよならあなた』が劇場公開されたときの事です。それを見た学生たちから「先生はどうして私たちが思い付かないような新しいことを、考え付くのでしょうか」と言われました。

どういふことかと聞いてみると、カメラを傾かせたり、一カットごとにカメラの回転スピードを変えたりしたことに、学生たちは驚いたのです。確かに、そのような手法は、現在では珍しいかもしれません。しかし、例えばサイレント映画の頃、手回しカメラを使っていた時代ではよく用いられていたものです。

首をかしげた視点で、カメラを動かすなら、当然、画面も斜めになる。きれいに整つた画面よりも、この方が心の思いが伝わります。

現在は映像機器も発達していますが、最も大事なものは、人間的な自由な発想や創意工夫。映画製作においても、昔を知れば知るほど、つまりは「アナログ」を知れば知るほど、「デジタル」での表現も豊かになると思います。そのような表現の魅力も学生には伝えていきたいと思っています。

私は若者たちをよくロケットに例えます。未来に飛んでいくロケットです。当然ですが、ロケットは、それ自体では宇宙に飛び立つことはできません。発射台が必要です。

いわば、過去の蓄積は、若者にとつての発射台「温故」といっていいでしょう。これからも、若者とかかわつて、私たち自身が、多くのことを彼らに残していき、彼らなりの未来、いわば「知新」を手練り寄せてほしいと思います。(談)

古民家に先人の暮らしを思う

NPPO法人「かがわサンサン倶楽部」

平成十六年設立、翌年NPPO法人に。地域に根ざした暮らしや民家、町並みを再確認し、我が国の民家再生及び、活性化に貢献することを目的に活動。建築家など五十名で活動。

◆歴史の重みを生かす古民家再生◆
いろいろや土間、巨大な柱、そしてその柱をつなぐ太く大きな梁。私たちの先祖の文化遺産ともいえる、昔ながらの民家を守る取り組みが広がっています。

香川県で活動するNPPO法人「かがわサンサン倶楽部」もその一つ。民家再生の普及を中心に地域の特色ある歴史や伝統文化を次世代に継承しようとしています。事務局の横田律子さんは言います。

「昔からある古い民家は、くぎを使わず、職人たちの見事な手仕事から生まれた貴重なものです。さらに、古民家には銘木が使われている場合が多く、耐久性、耐震性にも優れているほか、独特な風合いがあります。同じような味わいは現在の建材では出せません。しかし、今ではそんな貴重な民家が数多く壊されています。もったいないことです。古い民家を解体して、古材を補修し、新築の家に再生する。歴史の重みや昔の良さを生かしながら、新しい建築様式も取り入れる古民

家再生により、快適な住空間が実現できるのです」

◆古民家のある暮らしの良さを伝えたい◆
現在同法人では、毎年、写真コンテスト「民家の甲子園」を実施し、全国の高校生を対象に古い民家や町並みを撮影した写真作品を募っています。



「民家暮らし塾」で地域の伝統文化を学ぶ

実践してみよう おばあちゃんの知恵

NPPO法人「おばあちゃんの知恵袋の会」

平成五年に設立。健康法、暮らしのコツなどを収集し、「おばあちゃんの知恵袋通信」として発行してきた。平成十六年にNPPO法人化。「本家！おばあちゃんの知恵袋」など監修著書多数。
ホームページアドレスは <http://www.chiebukuro-net.com/>

◆知らないももつたいない知恵を伝えたい◆

「分からないことはおばあちゃんに聞け」をスローガンに掲げ、活動するNPPO法人「おばあちゃんの知恵袋の会」。理事長の村尾宏さんは話します。

「私たちの周りには、長い時間をかけて培われてきた暮らしの知恵が満ちています。身近なものを通して生かすためのアイデアが豊富にあるのです。しかし、現在、核家族化が進み、親から子への伝承が難しくなっています。また、私が生かすところは、隣近所と縁側で話をしたりするなど、日常的に暮らしの知恵を含めて、いろいろな情報が交わされています。生活環境などが変わり、現在は結果的に生活の中で人と人とのつながりが薄くなっていると思います。世代間の縦のつながり、地縁の横のつながりが希薄になってしまったのです。

このままでは、役に立つ先人たちの暮らしの知識が後の世代に伝わりません。知らないももつたいない知恵を伝えたいというのが活動の動機でした」

◆趣味として気軽に取り入れたい◆

生活の中に、先人の知恵を取り入れる。別に肩肘はらずに、趣味として取り入れてみることを提案する村尾さん。

「おばあちゃんの知恵の伝承といっても、昔ながらの生活を行いましよとの提案ではありません。身の回りのものを上手に使って、より生活上手に、暮らしを便利にしようという提案です。ですから、趣味として楽しむというような、簡単な動機付けで始めてみたらいかがでしょうか」

実際、同法人の活動や、情報提供に触発されて、多くの人が積極的に暮らしの知恵を現在の生活に取り入れているとのこと。

「私たちの会へ、メールなどを通じて、軽い気持ちで生活に取り入れてみたら大きな効果があつた、家事が楽しくなつたなどの感想や、体験談などが寄せられています。自分のペースで、無理なく、楽しく取り入れてほしいですね」

「地域の中にある、貴重な民家、町並み。普段はなかなか注目しない、かもしれないませんが、そんな歴史的な遺産、民家のある暮らし・住文化を郷土の中に再発見し、その良さに気付いてもらいたい。その気付きが、民家の素晴らしさや古い伝統あるものへの理解を深める第一歩だと思います」

ほかにも地域の小学生を対象に、古民家の建物に触れて、建築素材の素材さや民具、農具から当時の生活を体感するワークショップを実施するなどしています。

また、再生した民家のお披露目の会も兼ねて、古民家を学ぶ勉強会「民家暮らし塾」を定期的に開催しています。実際に古民家に触れるのはもちろん、石見神楽、お茶会など地域の伝統文化について学んだり、民家再生に生かす材木について勉強したりします。参加者の中には、古民家の素晴らしさに気付き、実際に住み始めた人もいるとのこと。

「皆さん、木のぬくもりなどにどこか懐かしさを感じられている。やはり、昔ながらの良さに愛着を感じるのだと思います」と横田さんは語ってくれました。



民家の甲子園・写真集

おばあちゃんの知恵袋から

① やけどをしたたら

やけどをしたたら、手でもみ込んだキャベツの葉を、患部に貼ってみましょう。キャベツの葉には消炎効果があるといわれています。乳腺炎になつたときも、キャベツの葉の湿布が効果的です。

② 敷居のすべりが悪くなつたら

卵の殻を使えば、和室の障子やふすまなどの建具のレール(敷居)のすべりをよくできます。まず、割つた直後のヌルヌルしている卵の殻を布で包みます。包んだ状態で殻を砕き、布全体に霧吹きなどで水分を含ませてから、敷居を吹きかけます。細かく砕けた殻の粒子でふすまのすべりが良くなりますよ。

③ たまねぎの涙を防ぐには

たまねぎを切ると、どうしても涙が出ますよね。これを防ぐために、皮を水の中でむいてみましょう。これにより、たまねぎの催涙物質が水に溶けてしまします。水から出したたまねぎは、包丁で切つても、涙は出にくくなります。

④ とげが刺さって取れないときは

手にとげが刺さつて、とげ抜きでも取れない場合、里芋をすりおろして、ガーゼにとり、とげの刺さつたところに貼ります。翌朝には不思議にとげの頭が押し出されてきます。里芋が水分とともにとげを吸収するのです。

※このコラムの情報は
同法人監修の「本家！
おばあちゃんの知恵袋」に基づいています。

